

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第1回）「体力の向上」部会 要点録

開催日時	平成21年5月21日(木) 午後3時30分～午後4時00分	
会場	練馬区立開進第二中学校 セミナーハウス	
出席者	委員	米津光治、杉原昇、赤木宏行、宮野いずみ、内田秋男、工藤智昭、本間章郎、畑陽子（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	渡辺浩一 指導主事

1 アドバイザーの挨拶

アドバイザー

昨年、「平成20年度 体力調査報告書」を作成に関わらせていただいたこともあり、この部会を担当になったのではないかと。私はもともと東京都の中学校の保健体育の教員で、そのあと指導主事、東京都教育委員会を経て、現在、文教大学の体育研究室で体育科教育を中心に教員学生の養成にあたっている。

この部会として進めていくには、現行の「学習指導要領」からの改訂の中で話題になったこととか、あるいは今回の「学習指導要領」の改訂の趣旨がどこにあるのかということ踏まえながら、資料が作成されていくと考えているので、意見交換をしていきたいと思っている。

2 事務局からの説明、意見交換

（各委員から所属を含め自己紹介）

（事務局から本日欠席の委員の紹介）

事務局

まずは部長の先生の選出だが、赤木校長先生にこの部会の部長をお願いしたいと思うが、いかがでしょうか。

（拍手）

部長

今後の仕事に関しては、練馬区のこれから先の教育を担う目玉となっている教育課題の、一番資するところの勉強会なのだと思う。少しでも役に立てればと思う。

事務局

本日は、赤木先生は所用で先に退席するので、進行は私のほうで進めさせていただく。

まず年間計画の調整で、計9回の部会を予定した。まずは次回第2回目の日にちと会場を確認したい。

【検討結果】

第2回 6月25日(火) 15:30～ 練馬区役所東庁舎5階501会議室とする

事務局

資料作成も2年間にわたって進めていく。今回は授業以外のさまざまな取り組みの中で、3期に分けてどのような取り組み例が考えられるのか、それぞれの経験や、知識等を小中連携の視点をふまえてお聞かせ願いたい。

平成20年度の「体力調査報告書」を配付した。参考例ではあるが、児童・生徒の体格を示し、東京都と全国と本区との平均値の比較が出ている。大きな開きがあるのが、全身持久力、筋パワー（瞬発力）、投能力で、大きな課題となっている。この改善について、これからの視点として、授業外のいろいろな取り組みの中でこういった力を高めていくことができるか、意見を伺いたい。

更に運動の実践以外に、今回の「学習指導要領」の改訂では食育のことも大きく触れられている。食育の実践、取り組み等についても意見等をいただくと、いろいろな方面からアプローチができることにもなる。

アドバイザー

難しいのは、学校教育の中で中核になるのは体育・保健体育だが、その目標は、体力の向上だけを担っているわけではない。新体力テストの数値の向上だけを目指すのが体力の向上ではないはずだ。

生涯にわたって自分自身の体力とか健康に関心を持ち、現状とこれからを見据えた中で、子ども自身がどう体力向上にかかわっていけるのか。そういう子どもを育てるために、何をするかという話になっていくのだろう。まずその辺の共通理解を図っていく。体育が中心とは言ったが、それ以外の特別活動や保護者と地域との連携、部活動も含めて何ができるか。

事務局

やや数値に走ってしまったと反省した。米津先生からいただいた、自分から関心をもって運動に取り組んでいけるような児童の育成をいかにできるかということは、たいへん貴重な視点になるうかと思われる。

アドバイザー

あと一つ、まず現実に小中の一貫を進めるにあたっての指導方法の段差みたいなものを明確にさせていただけるとたいへんありがたい。

委員

やはり体力テストの結果を上げるために、指導法自体がトレーニング的な指導に走りがちになるところがある。1種目だけやって運動をやっているという捉え方もあるが、それぞれの発達段階で、生涯にわたるいろいろな運動経験をさせてあげることが大事だろう。小中一貫でやるわけだから、指導法の段差は必ずあると思うが、それをなくしていくことが大事ではないか。

事務局

小中の段差というのを具体的にお示しいただきたい。

アドバイザー

小学校体育の中での指導と、中学校の体育分野での指導でそもそも求めているものは何なのか。例えば小学校では特定のスポーツに特化しない指導をする中で運動の楽しさを求めているとすれば、中高はややもするとスポーツ偏重だと思う。そうだとすると、当然指導法に段差があり、そのあたりを明らかにしたい。

委員

これは小中だけではなく、小学校6年間の指導の中で溝がある。だから問題点を明らかにしながら、誰が教えてもある程度の素地を作れる一貫したカリキュラムか指導法ができれば、小中一貫でもいいのではないかと思う。

アドバイザー

きちんとした体育・保健体育の授業が展開されれば、おのずと体力は向上すると思っている。子どもたちがきちんと主体的にかかわる授業であれば、体力の向上には間違いなく効果があると思っている。指導の意識も含めて、練馬区の9年間の中でどうしていくのかを明らかにしたほうがいいのではないか。

事務局

まず教育現場の実態を明らかにして、そこから今度は打開策を検討していけばよいか。

アドバイザー

小中それぞれの批判ということではない。

委員

1年生から4年生ぐらいまでは担任制、5、6年生は教科担任制か。進めるにあたって、指導法の方向性を説明してもらいたい。

事務局

次回、各校における体育・保健体育科指導の実態について意見をいただきたい。